



女子バスケットボール部が インカレ5連覇の快挙!

本学女子バスケットボール部は「第73回全日本バスケットボール選手権大会（インカレ）」において、5年連続大学日本一の快挙を成し遂げました。

本大会では、1回戦 北翔大学（北海道2位）、2回戦 日本経済大学（九州1位）、3回戦（準々決勝）日本体育大学（関東6位）、4回戦（準決勝）早稲田大学（関東4位）との熱戦を勝ち上がりました。

5連覇がかかった決勝では、3年連続で白鷗大学（関東2位）と対戦し、木村亜美選手や池松美波選手を中心に得点を重ねた結果、88-67の21点差で勝利しました。

また、本大会の個人賞として、優秀選手賞にジョシュアン・フォノ・ボテミト選手と池松美波選手が選出され、キャプテンの木村亜美選手は最優秀選手賞として表彰されました。

恩塚亨監督は昨年9月に前任のトム・ホーバス氏の後任としてバスケットボール女子日本代表のヘッドコーチに就任しており、今年度からは日本代表チームの指導に専



念します。本大会は恩塚亨監督が率いる最後のインカレとなり、15年にわたる本学女子バスケットボール部監督としての集大成を飾るにふさわしい結果となりました。

今後の女子バスケットボール部の活躍にも是非ご期待ください！

第73回全日本大学バスケットボール選手権大会結果

- 優 勝：東京医療保健大学（5年連続）
- 準優勝：白鷗大学
- 3 位：早稲田大学
- 4 位：愛知学泉大学

INTERVIEW

恩塚 亨 ヘッドコーチ



皆様より日頃からあたたかくご支援を賜っていることに心から感謝しております。2006年に創部して、インカレ5連覇に至る道にはたくさんの物語がありました。

皆様の笑顔、お声かけがあったおかげで、どんな時も理想に向かって歩み続けることが出来たんだと胸を熱くしながら振り返っています。「思いやり」によって、人生は美しく、素晴らしいものになっていくことを実感しています。

この思いを胸に抱いて日本代表チームが志高く、使命感深いチームとして、パリオリンピックで金メダルを獲得し、「思いやり」あふれるスポーツ界となるように最善を尽くしてまいります。

【密着ドキュメンタリー番組のお知らせ】

BSフジにて恩塚亨HCの密着ドキュメンタリー番組が放送されました。「ワクワクが最強!」の指導法に注目!

詳細はこちら



♪ 校歌

詳しくはこちら

「命・いのち」「思いやり」「人の絆」「愛」を大切にすることになってほしい。そんな思いを詩に込めました。



東京医療保健大学 | 学報 | 第33号

THCU CHRONICLE No.33 SPRING 2022

令和4年4月1日発行

発行／東京医療保健大学 東京都品川区東五反田4-1-17

Spring 2022 Tokyo Healthcare University 4-1-17 Higashigotanda, Shinagawa-ku, Tokyo, Japan

【URL】 <http://www.thcu.ac.jp> 【E-mail】 kikaku@thcu.ac.jp



01 【巻頭対談】理事長×学長

Care の今・未来

03 Message from Professor

副学長からのメッセージ

07 気になるあの人にインタビュー

～あのひとをたずねて～

09 2022 SPRING

TOPICS & INFORMATION

寄り添う心を持った 医療リーダーを育てる

“理事長 × 学 長” 田村 哲夫 亀山 周二 Care の今・未来

理事長

田村 哲夫

Tetsuo Tamura

社会が大きく変化の中で、これからは自立した看護学が必要と考え、平成 17 年 4 月の本学開学に尽力。校歌の作詞も手がけ、本学の教育理念である 4 つの言葉、「生命」「思いやり」「人の絆」「愛」を盛り込んだ。東京大学法学部卒業後、現三井住友銀行での勤務、日本ユネスコ国内委員会会長等を経て、現在に至る。学校法人渋谷教育学園理事長兼任。



ケア(看護)の役割が ますます重要になる時代

田村：まず私から、建学 17 年目を迎える東京医療保健大学の理念について話したいと思います。ケア（看護）は長らく病気を治すためのキュア（医療）を支える、従属的な立場であると位置付けられていました。もちろん最終的には医療が科学的な柱ですが、学問としての看護の倫理学をきちんとした形でつくり、学びたい方に伝えたいという想いが、本学を設立した趣旨です。つまり、医療が必要となる前の段階で、学問的な訓練と人間的な修養を積んだ看護のプロフェッショナルが対応できることはたくさんあるはずだと考えたのです。いつの時代も、人は誰かに頼らなければ生きていけません。特に近現代において、人間の弱さのほころびが浮き彫りになってきており、ケアが担う役割は非常に大きくなっているのではないのでしょうか。

本学は首都圏と関西に 5 学部 7 学科ありますが、NTT 東日本関東病院に隣接する五反田キャンパスをはじめ、すべてのキャンパスが日本を代表する病院のすぐそばにあります。超一流の病院で行われている最先端医療の現場で、学問的な訓練を繰り返すことが真の看護学、医療栄養学、医療情報学をつくり上げていくと考えるからです。日本に大学附属病院はありますが、私たちが目指したのは病院附属大学です。こうした環境のもとで共に学んだ学生達（昨年完成年度を迎えた和歌山看護学部、千葉看護学部も含め）約 700 人が本学を卒業し、医療従事者として巣立っていきました。では実際の学びについて、亀山学長にお話したいしたいと思います。コロナ禍でなかなか大変だったのではないですか。

寄り添う心を持った 医療リーダーを育てる



学 長

亀山 周二

Shuji Kameyama

東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部付属病院泌尿器科講師、NTT 東日本関東病院院長等を経て、本学学長に就任、現在に至る。泌尿器科を専門とする医学博士。最先端医療に精通した知見と、誰一人置き去りにしない手厚いケアを大切にす理念をもとに、どの時代にも必要とされる医療人の育成に邁進する。



ワクワクする心を大事に 看護の道で社会のために

亀山：今後は、ウェルビーイング、人がよりよく生きるためのケアが必要です。“ケアの倫理”が認識され、医療は従来の枠組みから大きく変革し、さらには医療の現場に D X * がどんどん導入されています。こうした時代に、本学を志望してきた学生は、自分のやりたいこと、成長したいことを皆さん持っています。今の若い世代の頑張りは素晴らしいです。ゴルフの松山英樹選手や競泳の池江璃花子選手も、挫折を味わった後にビジョンを持って好きな道で成果を出されました。在学生の皆さん、卒業生の皆さんも、自分の好きな道を選ばれたわけですから、社会のためにその力を存分に発揮していただきたいと思います。

田村：人生は、自分が思っているようにしかなりません。それは、夢をちゃんと持つことができれば実現する可能性が出てきますが、夢を持っていなければ最初から叶わぬということです。本学的女子バスケットボール部は全日本大学選手権（インカレ）5 連覇という快挙を成し遂げましたが、バスケットボール技術のみならず、メンタルコーチでもある恩塚亨監督の指導方法は「選手が試合でワクワクする気持ちを持てるように」ということだそうです。スポーツでも、学びでも、医療の仕事でも、ワクワクする気持ちは大事です。なりたい自分を思い描いて、そこに向かってワクワクするような人生を送ってほしいと思います。

* 医療DX：医療を取り巻く環境の変化に対応するために、データとデジタル技術を活用して、患者や社会のニーズを基に、診療・治療といったサービス、経営モデルを変革し、医療提供の課題を解決すること。

最先端医療の臨床の学びと オンラインならではの実り

亀山：田村理事長のおっしゃった「最先端の臨床の学び」が、緊急事態宣言の発出によって閉ざされた部分があることは否めません。学生は病院での臨地実習、病院に赴いて先生から患者教育を受ける機会を大幅に奪われました。多くの臨地実習が、教員や学生が模擬患者となって行う学内実習に移行しました。対面授業とオンライン授業の振り分けについては指標を設け、感染状況に応じて科学的に判断しています。2020 年度は臨地実習が十分でできませんでしたが、2021 年度は殆どの病院で再開されました。やはり、対面による患者さんとの直接的なやりとりは、医療・看護の分野ではとても大切です。今年度の新人看護師は、2020 年前後で 3 年生から 4 年生でしたが、コミュニケーションスキルの面で影響を受けていることは、各病院の看護部教育担当者も感じているようです。オンライン授業については、高度なラーニングマネジメントシステムを導入し、模擬電子カルテを始め様々なシミュレーターなどを通して、対面での授業や実習で学べない部分を補うように対応しているところです。また、文部科学省による「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の募集があり、本学からは「学習過程成果の可視化、見える化を目的とした医療系の学びにおける D X 推進」というテーマで応募し、採択されました。コロナ禍でのこの成果は大きいですし、この取組みを介して学生一人ひとりの学びをきちんと評価・見える化して、さらに社会人としての道につなげてあげたいという想いです。

コロナ禍で顕在化した 次のミッションに向けて

亀山：コロナ禍で第 5 波による在宅療養者が 10 万人を超え、国内においても約 200 人の方が自宅で亡くなりました。これが先進国の保健医療の有り様なのかと医療人として忸怩たる気持ちですし、ケア領域の人材育成の大切さが明らかになりました。本学の大学院では診療看護師、つまり、医師とほぼ同じケアを行える看護師を育成してきました。診療看護師は全国で 600 人余りとまだ少なく、さらに地域医療や在宅医療を専門にする方は 4 分の 1 程度です。こうしたプライマリケアを担う資格と能力のある看護師がまだ足りない中、主にプライマリケアを担う診療看護師を養成すべく、新たな研究科を 2023 年の開設に向けて準備を進めています。在宅医療や介護の現場は、一人で廻って判断が必要な仕事です。これまで以上に一人ひとりの能力を高めていかなければなりません。

田村：在宅医療が増え、医師も少ない状況下で、看護師の能力を高めていくことは必須です。しかし、今の看護師は訪問看護の訓練がほとんどされていないのが現状です。本学の大学院千葉看護学研究科では、「地域包括ケア」の推進に伴い、「在宅医療」や「訪問看護」を担う看護職の育成を目的にしていますが、同時に千葉県内の現職看護師を集めて再教育を行なっています。また、大学院看護学研究科ではクリティカルケア領域にて看護師がいくつかの医療行為を行なうための教育を実施しています。いち早くコロナ感染症に対応し、次の体制づくりに着手できるのは、本学が最前線医療の現場とつながっているからです。建学当初に考えた看護の自立が、今着実にケアの現場と教育の場に反映されていると感じています。

MESSAGE FROM PROFESSOR

副学長からのメッセージ

▶ 五反田キャンパス



坂本 すが

SUGA SAKAMOTO

東京医療保健大学 副学長
医療保健学部長・看護学科長
大学院医療保健学研究科長
助産学専攻科長



医療人としての基盤とへこたれない力を育てる

五反田キャンパスは医療保健学部看護学科の拠点であり、助産学専攻科、大学院医療保健学研究科の学生（院生）もここで学んでいます。隣接する NTT 東日本関東病院は主たる実習施設であり、病院直結型キャンパスとなっています。

これから 10 年は、高齢人口の増大に加え、多様な健康問題を抱えるあらゆる世代の人々が地域で暮らすようになります。変化する社会で多様な人々のニーズに対応するために、看護専門職は知識・技術の向上に努めることはもちろん、仲間と協力しながらあらゆる困難にも立ち向かい、心あるケアを提供する力が求められます。

看護学科での 4 年間は「いのち」に携わる医療人として、その基盤をつくる期間です。この学びの過程で、人の「いのち」そのものを愛おしみ、その人の「生きる」に向き合い、支えることで自分自身を見つめる。その姿勢が医療人としての心と技術を育てます。

学生の皆さんには、自分の個性を大切にしながら、自分と違う考え方も認められる人間になってほしい。さらに新しいことに挑戦し、失敗してもそれを糧にして前進できる“へこたれない力”をぜひ身につけてほしいと思っています。

さて新年度の抱負は「身体に自然を感じ活力にすること」です。目の前のタスクに向かうばかりでなく、自然の中でふと立ち止まって内省し外から自分を俯瞰してみることが、前へ進む糧になると考えています。

▶ 世田谷キャンパス



石原 照夫

TERUO ISHIHARA

東京医療保健大学 副学長
医療保健学部 医療情報学科長



医療・保健分野の DX を担う人材の育成

最近、DX（デジタル・トランスフォーメーション）と言う言葉をよく耳にします。デジタル化の先を示す言葉です。コロナ禍で利用が加速した e-shopping、そこでは購入の手続きがスマホや PC で行われます。これがデジタル化です。書籍の購入を例にとると購買した書籍に関連した分野の書籍が画面に表示されるのはよく経験されますが、購入した書籍の内容の分析に基づく推薦書籍や購入者の購買動向、職業、関心領域等の分析結果に基づく推薦書籍が表示されたら、購入者の知識欲は一層膨らむでしょう。これが DX の流れです。

医療分野では、受付機での受診手続き、診察室での医師の電子カルテへの記録、伝票なしの患者さんの移動などは、医療のデジタル化によるものです。今後は、蓄積されたビッグデータを元に情報通信技術 (ICT)、情報科学の力を活用して、この分野が抱える課題解決、すなわち DX へと進まなければなりません。

医学・医療・保健分野ではこの DX を進める人材が特に不足しています。医療情報学科では、医学・医療・保健分野のリテラシーを身につけ、その上で、最新の ICT・情報科学をこの分野に応用し、ビッグデータの解析を通して、課題解決に貢献する人材の育成をめざしています。ICT、情報科学の進歩は早いので、常に up-date した授業を心掛け、カリキュラムの改善に取り組んでいます。

▶ 世田谷キャンパス

医療の最前線で活躍する、 臨床に強い管理栄養士に

医療栄養学科は、学科名に「医療」と銘打っているように、調理や給食だけでなく、医療を意識した管理栄養士の養成を目指しています。新型コロナの影響で遠隔授業が多くなりましたが、栄養生理学・食品化学などの実験、給食・調理や食品加工などの実習は感染対策に十分配慮して対面で行っています。病院見学や医療現場で活躍する管理栄養士による講義を通じて、病院での管理栄養士の役割を理解し、患者さんの状態にあった栄養管理を学習します。模擬患者さんと接し、身体の状態や食事の摂取状況等を聞き取ることで、技術力・判断力・マナーを身につけ、病院や施設・保健所での実習（臨地実習）に備えます。そして臨地実習では、給食業務や地域住民への食育活動のほか、病態別の食事療法・栄養療法を正しく理解し、患者さんにもっとも適した食事アドバイスを修得するように学びます。また「栄養サポートチーム (NST)」の一員として、他の医療専門職と協働しながら、患者さんの栄養支援ができる実践力を習得します。このようにして育成された医療現場に強い管理栄養士は、病院だけでなく学校・幼稚園や保健センター、食品会社、給食会社など、食と健康にかかわる様々な分野ですます期待されています。医療の最前線で活躍する、臨床に強い管理栄養士と育っていただくために、本学科の教員が一丸となって、取り組んでいます。



小西 敏郎

TOSHIRO KONISHI

東京医療保健大学 副学長
医療保健学部 医療栄養学科長



時代に即した医療・保健・福祉に 寄与できる高度実践看護職の育成

看護学研究科には、大学院修士課程として「高度実践看護コース」「高度実践助産コース」「高度実践公衆衛生看護コース」「看護科学コース」並びに大学院博士課程があります。本研究科では、診療看護師 (NP)、助産師、保健師、修士・博士の資格取得と共に、高度な判断力、実践力および教育研究・管理能力を通じて、医療・保健・福祉に対する時代・社会のニーズに的確・迅速に対応してチーム医療を支える高度実践看護職を養成しています。さらに、高度実践のエビデンスを構築して、看護学の発展に寄与することができる人材の育成を目指しています。

大学院入試では看護学研究科志願者数も増えてきており、この 4 月には 30 名を超える大学院生が入学予定です。この 2 年間のコロナ禍の中、オンラインと対面の授業方策を熟成し、学外実習施設とも協議を重ねて十分な実習を行ってきました。本年度は、これまでに開発してきた授業形態と学外・病院実習を基盤とし、他の教育施設には無い実践能力と研究開発能力の育成をしていきたいと考えています。また、目黒区、世田谷区との地域保健・母子保健・健康プログラムもオンラインを含めて継続開催して参ります。さらに研究分野では、コロナ禍ならではの実践に即した研究課題が多く取り扱われるようになり、時代のニーズに即した社会貢献をして行きたいと思っています。



大島 久二

HISAJI OSHIMA

東京医療保健大学 副学長
大学院看護学研究科長



MESSAGE FROM PROFESSOR

副学長からのメッセージ

▶ 国立病院機構キャンパス



山西 文子

FUMIKO YAMANISHI
東京医療保健大学 副学長
東が丘・立川看護学部長
東が丘看護学部長



看護実践能力・判断力を培い、 国際性豊かな人材育成を目指します。

東が丘看護学部を開設し12年経ちました。大学院は修士課程4コース、博士課程とすべて整っております。2018年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価を受審し、最先端の教育を実践していることを高評価されております。さらに改善し、意図的に実践してきております。大学の役割は教育、研究、社会貢献と言われております。

大学においては、大学院を含めて計画・実践した教育の評価が大切でPlan・Do・Seeのサイクルが廻っていること、修了生の動向まで追究されています。また、研究面では多方面に亘り学会を賑わせております。

学部では卒業研究をグループ毎に指導し、卒後に学会活動に繋げております。コロナ禍で平時とは異なり対面授業や実習ができないのはとても残念ですが、この様な状況下の毎日でも学生ファースト・第一を目指して取り組んでいます。病院実習率が最も高い学部です。本年4月からカリキュラムが改正されます。グローバル人材とは文部科学省では①、人間としての教養、②、語学力、③、異文化対応力、④、コミュニケーション力、⑤、価値創出力、⑥、ダイバーシティ（多様性）への協調性、⑦、社会貢献の能力を持った人間とあります。そのため看護の国際性を培う教育に近づくよう準備しております。乞うご期待。隣に「駒沢公園」があり、緑も多く教育環境には恵まれ最高の立地条件です。入学時から全員にパソコン一台貸与します。皆で一緒に学びましょう。

▶ 船橋キャンパス



宮本 千津子

CHIZUKO MIYAMOTO
東京医療保健大学 副学長
千葉看護学部長
大学院千葉看護学研究科長



DXによる学修の促進と地域協働活動の発展へ向けて

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保証人の皆さまにおかれましては、コロナ禍にあって未来に向け頑張る姿を見守り応援され、今日を迎えられましたこと、さぞやご安堵されたことと存じます。

千葉看護学部はCOVID-19感染拡大のなか、withコロナのスタンスで様々な工夫し前進を続けて参りました。対面とオンラインのそれぞれの良さを活かした授業を展開し、また、医療の逼迫にともない実習の短縮化を余儀なくされながらも、臨地のご協力とICTの活用で臨場感ある学内実習を開発しました。残念ながら、地域住民の方々や患者様と直接触れ合い、看護ケアを実施する機会のごく限られましたが、臨地でなければできないことは何かを深く考える機会とできました。

今年度はこれらをさらに発展させ、学生の主体的な学修を促進するためEラーニングやシミュレーショントレーニングの導入を企画しています。また、地域貢献活動やJCHO病院との協働活動も積極的に再開する予定です。

昨年度末には初めての卒業生103名が船橋キャンパスから巣立っていきましたが、彼らの活躍にも大いに期待しています。実習病院・保健所に就職をした卒業生は、生き生きと看護する姿を在学生に見せてくれることと思います。

広いフィールド観をもとに未来を生み出す力の育成に向け、皆様のご支援ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

▶ 国立病院機構立川キャンパス

看護実践力・災害対応力・看護探求力を学び、 「地域から信頼されるNurse」を目指します。

2014年東が丘・立川看護学部「災害看護学コース」の設立、2020年度から立川看護学部看護学科となり1学年100名の4年制看護学部です。立川駅から徒歩15分程度の距離でバスでも2停留所、昭和記念公園の傍を通過して四季折々にお花や草木が楽しめるとても自然に恵まれ、災害医療センターの敷地内に立地する環境にあります。

立川看護学部看護学科の教育課程は、看護の実践能力、災害対応能力、看護を探究する能力を兼ね備えた「地域から信頼されるNurse」を育成するために組織化されています。最近の我が国においては、地震や津波、台風、大雨洪水等の自然災害が多く発生しています。それらに対応する能力を育成するため、「災害看護学Ⅰ」「災害看護学Ⅱ」「災害看護学Ⅲ」「災害看護学実習」「災害看護に係わる卒業研究」の科目を副専攻と位置づけ、教育しております。最も身近な医療職である看護職が、最善の看護を提供できることが重要と考えています。

看護学を学ぶ学生には、生命の尊厳を理解し、知的好奇心をもって看護を探究する姿勢が重要です。何事にも興味を持って取り組む姿勢が大切です。本学部では、看護を通して「災害時でも最善の看護が提供できる能力を身に付けたい!」という情熱と、未来の臨床現場を担う決意と高い志を持った学生を求めています。豊かな環境の下で皆で切磋琢磨して学びましょう。お待ちしております。



山西 文子

FUMIKO YAMANISHI
東京医療保健大学 副学長
立川看護学部長



和歌山の人々の健康生活への 貢献を目指して更なる発展

和歌山看護学部は、初めての卒業生を送り出し5年目を迎えました。地元根ざし地域を支える看護職の育成をしています。さらに深く、広く学ぶために2020年度から和歌山看護学研究科で教育を開始し、2021年度には学びあう場として和歌山看護実践研究センターを開設しました。2022年度から和歌山助産学専攻科での教育が始まります。

首都圏のキャンパスとは離れていますが、大学の建学精神のもとに、和歌山の特色を活かした教育活動を展開しています。「わかやま学」は、専門家の知見をもとに和歌山の理解を深め、地域の健康課題に私たちは何ができるかを考える科目です。連携している日赤和歌山医療センターはじめ和歌山県内の多くの実習施設の協力を得て看護実践力を身につけています。大学院においても地域住民の健康支援を担うリーダーになれる人材を育成したいと考えています。

コロナ禍にあっても入学当初からリアルタイムの遠隔授業を基本として教育を進めてきました。演習・実習においては様々なシステムの活用と工夫をして実践に近い状況を再現して教育の質を保つための努力を続けています。

学内行事は感染状況を見極めながら、感染対策を万全にしてプログラムを精選し、医愛祭、オープンキャンパスなどを開催しました。学生にとって大学生活はとても大切なものです。充実した毎日が送れるように学習環境を整えていきたいと考えています。



八島 妙子

TAEKO YASHIMA
東京医療保健大学 副学長
和歌山看護学部長
大学院和歌山看護学研究科長



～あのひとをたずねて～

東京医療保健大学で今、活躍している人、注目したい人をご紹介します。



FILE No.01

卒業後は病院管理栄養士 として活躍！

医療保健学部 医療栄養学科 2022年3月卒業

杉澤 舞さん

学業はもちろん、デイケアクリニックでの調理アルバイトやこども食堂でのボランティア活動にも積極的に参加。管理栄養士の資格を取得し、今春からは病院管理栄養士として活躍します。

▶在学中、積極的に取り組んでいたことは何ですか？

私が積極的に取り組んできた科目は、臨床栄養学です。この科目を修得するために私は「体の仕組み」の理解にまず努めました。1つの病態を知る上で、それぞれの器官の役割を学び病態に結びつけること、そしてどのような食事療法を行うべきなのか、流れを大切に理解に努めることで、より深く学び得ることが出来ました。また、このように様々な疾患を学ぶうちにより学んだことを患者さんに伝えられるようになりたいと思い、病院管理栄養士を目指し、その夢を叶えることが出来ました。私は病院管理栄養士として、患者さんの意志や考えをしっかりと聞きだし寄り添うことができる栄養士を目指し、日々邁進していきたいです。

▶課外活動は何をされていましたか？

私は大学3年次からデイケアクリニックの調理のアルバイトを行っていました。デイケアクリニックにいらっしゃるお母さんやお子さんに昼食の提供を行うことが主な活動です。小児への食事提供を行うことから、食事の形態に配慮した調理方法を実際に学び、日々の食事の経過から子どもたちの成長と一緒に見たいと思いこの活動を始めました。そして活動を通して、どの調理から行え

ばより順序よく提供時間に間に合うのか、計画を練ること、計画通りに進まなくても臨機応変に対応出来るようになったことが成長できたことだと感じました。



① アルバイト先で調理した自信作♪
挽肉と茄子のボロネーゼ、ベビーリーフのマスタードサラダ、
キャベツとしめじの豆乳スープ

▶杉澤さんの考える東京医療保健大学の魅力は何ですか？

私の考える東京医療保健大学の魅力は、先生方との距離が近いことです。この魅力は、私たち学生にとって大切なことであり、分からないことがあったらすぐ先生方に聞くことのできる環境があることは学びに繋がります。また、学生支援センターの皆さんや教務部の皆さんの体制が手厚く、就職活動の際など様々な面でサポートして下さることも大学の魅力です！また、医療栄養学科がある世田谷キャンパスの近隣にはお洒落で魅力的なカフェが沢山あり、友人と一緒にいったことも大切な思い出の一つです。

教えて！ あなたの“大事なもの”

MY FAVORITE ITEM

マレーシア旅行を計画中！

マレーシア旅行の計画を立てることにハマっています。以前旅行でマレーシアに行った際に多様な文化の魅力に惹かれ、新型コロナが落ち着いたらまた行きたいと考えています。写真は、パトゥ洞窟です！



FILE No.02

和歌山看護学部の リーダー的存在！

和歌山看護学部 看護学科 3年

宮井 紀歩さん

和歌山支部学友会会長（キャンパス長）を務めたほか、友だちとバスケット同好会を立ち上げるなど多方面で活躍中。将来は、助産師になることを目指して学業にも励む宮井さんに注目しました。

▶今、積極的に取り組んでいることは何ですか？

私は助産師になることを目指しており、卒業後は和歌山助産学専攻科への進学を考えています。そのため看護の専門科目はもちろん、母性や小児の科目にも興味を持ち、積極的に講義を受けています。アドバイザーの先生も相談に乗ってくれてサポートしてくださるので、専攻科進学を目指して「頑張ろう！」と思っています。

▶キャンパス長として主にどのような活動をされていましたか？

“楽しんで学ぶ”ことをモットーに大学生Lifeを送っており、学友会に入ってから、様々な活動に参加し、人との関りの大切さを学びました。特に地元の消防署と合同で行った訓練では、先輩・後輩や先生方、そして学外の方と企画・運営を通して濃い関わりを持てました。一つの活動を通して、垣根を越えて関係性を築くことができるのが和歌山看護学部の魅力です。私は学友会を通して友達がたくさんできました！

▶同好会を立ち上げたそうですが何か目標はありますか？

最初は片手に収まる人数しかいませんでしたが、現在は20人以上の規模になりました。

た。縦の繋がりもできたので、バスケット同好会の活動以外に大学行事への参加を通して、沢山の繋がりを持ち、充実した学校生活になればいいと思います。今年度からサークルに昇格しました。元気の良さだけはどこにも負けないチームになることも密かな目標です（笑）

▶宮井さんの考える東京医療保健大学の魅力は何ですか？

東京医療保健大学の魅力の一つは、都県を超えて様々な学部があるところだと思います。医療系の大学ではマンモス校で、全学部合わせて約2800人の学生がいます。私は学友会の活動を通して他学部の方と関わらせ



① 学友会室でホッと一息♪

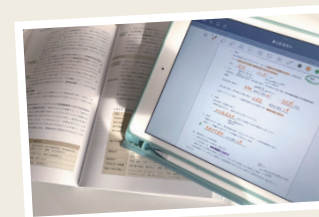
ていただく機会が多くありました。他学部との交流で得たことや、刺激を受けたことを活かしながら、和歌山看護学部で実践したいと思っています。

教えて！ あなたの“大事なもの”

MY FAVORITE ITEM

授業にも使えるiPadは必須アイテム！

iPadにハマってます。授業資料をダウンロードして書き込んでいます。レジュメを沢山持たなくてもこれ一つで良いので私の必須アイテムです。復習するつもりがYouTubeを見てしまうのが悩みです（笑）



TOPICS

01 令和4年度 学友会からのお知らせ

学友会は、東京医療保健大学に所属する皆さんがより良い学校生活を送れるよう行事やイベントの企画、運営をしている委員会です。また、大学との架け橋になるべく学生の声を大学側に届け、より良い学校作りや学生が充実した大学生活を送れるよう活動をしています。執行部－大学祭実行委員会－イベント委員会－スポーツ大会実行委員会－広報委員会－クラブ・サークル運営委員会の5つの委員会で成り立っています。



【会長挨拶】

新入生の皆様ご入学おめでとうございます！学友会会長の東が丘看護学部看護学科3年の篠原由伊と申します。このような状況下において高校生活や受験を乗り越え、皆様がここ東京医療保健大学の学生になりましたことを心より歓迎いたします。また、これまで皆様を支えてこられたご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。初めての大学生活に、今まで通りの日常を送ることが難しくなっている状況下で不安なことも多いと思います。そんな皆様の不安を取り除き、大学生活がより豊かなものになるような学友会運営を目指していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

このご時世でマスクをしていてわかりづらいとは思いますが、見かけたら気軽に話しかけてくださいね！

各キャンパス長（2022年4月1日現在）

■学友会会長・国立病院機構キャンパス長
篠原 由伊
（東が丘看護学部看護学科3年）

■五反田キャンパス長
佐藤 芙蓉
（医療保健学部看護学科4年）

■世田谷キャンパス長
松島 恭樹
（医療保健学部医療栄養学科4年）

■国立病院機構立川キャンパス長
内野 陽菜
（立川看護学部看護学科2年）

■船橋キャンパス長
松平 シオン
（千葉看護学部看護学科2年）

■学友会和歌山支部会長
谷為 光祐
（和歌山看護学部看護学科2年）

TOPICS

03 学生の多様なニーズを受け止めるハイブリッド型授業に向けて

本学がハイブリッド型授業を導入して、早くも3年目を迎えようとしています。この間、本学のCOVID-19に対する基本的スタンスは一貫しています。それは、感染拡大防止を徹底しつつ、同時に、学修や学生生活の質向上に努めるというものです。

その土台は、やはりCOVID-19に対する科学的知見を収集・分析する業務です。昨今の対策本部会議では、国内外の論文を共有することが多くなりました。変異株に関する知見は常にアップデートされますので、それを咀嚼し、「対面授業制限レベル」や出席停止基準をはじめとする学内の教育施策に落とし込んでいきます。いずれも学生に大きな影響を及ぼす判断ですから、科学的根拠がきわめて重要です。

また、広報活動も重要と考えていま

す。学生の学びや生活を守るためには、学生が不安にならないよう、それを支える保証人の皆さまや教職員との情報共有が欠かせません。そこで毎月の「遠隔授業だより」とともに、とくに「対面授業制限レベル」の変更時には変更理由とその根拠データを、Webサイトに公表しています。

本学には、少しでも多くの対面授業を望む学生も、学びやすさや感染不安から遠隔授業を望む学生も、併存しています。この多様なニーズを受け止め、今後もよりよいハイブリッド型授業環境を創っていきたくと考えています。



① COVID-19対策本部定例会議の様子



① 遠隔授業だよりの発行が26号目となりました。（2022年2月末時点）

【COVID-19 対策本部構成員】

■本部長
学 長 亀山 周二
■副本部長
副学長 石原 照夫（統括学校医）

■本部長
名誉学長 木村 哲（感染制御学教育研究センター長）
教 授 吉田 理香（医療保健学研究科感染制御学）
教 授 瀬戸 僚馬（学修基盤推進室）
事務局長 松浦 晃幸

TOPICS

02 同窓会総会をオンラインで開催、会長他役員が再任されました

【同窓会総会のオンライン開催】

令和4年2月19日（土）に同窓会総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響もありオンライン開催となりましたが、役員の改選が審議され今後の役員体制については、会長、副会長が再任されました。（役員に変動あり）

【会長就任挨拶】

令和4年実施の総会において、皆様のご推挙により会長に再任されました医療保健学部医療栄養学科6期生（2014年卒）の浅香 樹です。同窓会長として令和2年に選任いただいたから2期目となりました。1期目は組織の基盤づくりと在学生への支援に尽力してまいりましたが、この3年間会員の皆様の暖かいご支援とご協力によって、大過なく運営出来ましたことに、役員一同心から厚く御礼申し上げます。

発展を続ける東京医療保健大学の力を借りながら、今後は卒業生への支援につきましても注力していきたいと考えております。同窓会の使命である会員の為、大学を支援することを念頭に置いて同窓会運営に当たりたいと思っておりますので、引き続き会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。



同窓会紹介
リーフレットを
作成しました！



役員紹介

■会長
浅香 樹（医療保健学部 医療栄養学科6期）

■副会長
深山 侑里（医療保健学部 看護学科6期）
岡田 遼平（医療保健学部 医療栄養学科5期）

■監事
笠原 麻央
（東が丘・立川看護学部 看護学科4期）※理事→監事

■理事
庄司 尚子（医療保健学部 看護学科6期）
吉川 恭平（医療保健学部 看護学科8期）※新任
伊藤 雅晴（医療保健学部 医療栄養学科5期）
市川 典央（医療保健学部 医療情報学科6期）
福原 秀飛（医療保健学部 医療情報学科8期）※新任
木所 由貴（東が丘看護学部 看護学科2期）

〈退任〉

■理事
伊藤 大揮（医療保健学部 医療情報学科5期）
宇田川智司（医療保健学部 医療情報学科8期）

■監事
内山 祥子（医療保健学部 医療情報学科6期）

TOPICS

04 東京工業大学との共同研究成果を発表！

本学大学院医療保健学研究科 松村有里子准教授、岩澤篤郎教授と東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所の沖野見俊准教授らの研究グループは、「3℃から108℃まで温度を制御できる大気圧プラズマ装置」を開発しました。

本装置は、温度を精密に制御しながらプラズマ（用語1）を低温・大気圧下で発生させる新規装置であり、プラズマ化するガスと装置全体の温度を調整する液体が流れる流路を備えているのが特徴です。装置の構造は数値流体解析を用いて設計し、アルミニウム系材料を用いて3D金属プリンタ（用語2）により装置製作を行いました。さらに、この装置で二酸化炭素、アルゴン、窒素、酸素をはじめ様々なガスでプラズマを生成できること、ならびにプラズマの温度を3～

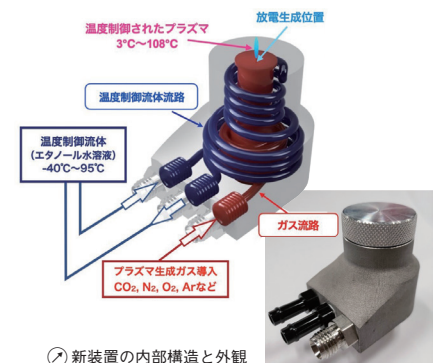
108℃の範囲でコントロールできることを実証しました。また、プラズマの温度やガスの種類を変えると、プラズマ中で生成される活性種（用語3）や殺菌効果が大幅に変わることを明らかにしました。

この研究成果により、大気圧プラズマの応用範囲がさらに広がり、皮膚や細胞に熱損傷を与えないプラズマによる殺菌・ウイルス不活化や表面処理効果が向上する事が期待されます。本研究成果は、「Applied Sciences」電子版に2021年12月9日に2報の論文として掲載されました。

【用語説明】

(1) プラズマ：自由に運動する正・負の荷電粒子が共存して電気的中性になっている物質の状態をいう。広義には固体物質もプラズマと見なすことができるが、狭義には気体状態の分子・原子に熱や電気エネルギーが加えられ陽イオンと電子に分かれたものを指す。10,000℃以上の高温状態をつくることから廃棄物処理や核融合へ

の応用研究が進められてきたが、近年、大気圧下で数十℃というマイルドな環境でのプラズマ生成例が報告されはじめている。
(2) 3D金属プリンタ：3次元モデルをもとに、金属材料を積層して物体を製造する装置。本研究ではアルミニウムとシリコンの合金粉末を素材として、40μm厚の層を積み重ねて装置を造形した。
(3) 活性種：反応性の高い状態にある原子、分子、イオン、ラジカルなどを指す。プラズマ状態では、加速された電子衝突による原子や分子の解離・励起によりラジカルや励起種が発生する。



② 新装置の内部構造と外観